



# 岩五だより

平成 29 年 6 月 1 日

小岩第五中学校

## 開校 60 周年『どの子ども育つ・・・』

校長 石井 千歳

5 月 27 日に 60 周年記念：第 59 回運動会を行いました。雨は降らず、係り生徒の協力により予定通り開会式を始めることが出来ました。さわやかな風が校庭を吹き抜ける中、342 名の生徒が競技や演技に参加し、心地よい汗を流すことができました。早朝より、ご来賓、保護者、地域の皆様に見守られながら無事に終了することができ、感謝申し上げます。

『とてもよかったですよ。』という励ましの声も多く頂きました。

さて、今月は、私の教育信念、『どの子ども育つ・・・』について考えます。20 年前、『愛に生きる一才能は生まれつきではない』という一冊の本と出会いました。タイトルの『才能は生まれつきではない』に強くひかれました。著者は、鈴木 鎮一さんです。この本を読み終わった時、教育とは、育て方ひとつ、教え方ひとつ、教育で子供は大きく成長する。このことが私の教育信念となっていきました。

『どの子ども育つ・・・』の『・・・』は、次の内容を略したものです。

はじめの・は、どの子ども育つ親（保護者）しだい。

二番目の・は、どの子ども育つ指導者（教員）しだい。

三番目の・は、どの子ども育つ自分（本人）しだい。

小・中学校 9 年間の義務教育は、『学校内外における社会的活動を促進し、自主、自律及び協同の精神、規範意識、公正な判断力並びに公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。（学校教育法）』を目標にしています。このために必要不可欠なことが『どの子ども育つ・・・』の考えです。では、最初の『・』親（保護者）について触れたいと思います。

人は、はじめから親にはなれません。子を授かり、はじめて親となります。そして子供の成長とともに『親』としての責任を感じるようになります。子供の成長には、親の成長が不可欠となります。子供は親の姿勢を見て育ちます。最初に子供を育てる『子育て』に親の占める割合が大きくなるのも納得できます。運動会の会場で見せる、親の声援、帰宅後に食卓で弾む家族の会話が瞬時に子供を成長させていきます。それは、小学校でも中学校でも同じです。

運動会は、あくまで一つの事象として取り上げました。毎日の生活の中でおこる様々な事象がお子様の成長を促していることは間違いありません。

残念なことに、『しつけ』という言葉で子供に対し日常的に虐待を行っている保護者の存在が話題になることがあります。『児童虐待の防止等に関する法律』では、暴行、減食、放置、暴言等を虐待と規定しています。親として、絶対にあってはならないことと私自身心に誓っています。親（保護者）が子を大切にし子の成長を楽しみにするのは当たり前のことなのです。今回は、二番目の『・』について考えたいと思います。

『どの子ども育つ親（保護者）しだい』